

老人クラブ連合会との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和 5 年 8 月 9 日 14 時～15 時

場 所 寺井地区公民館 301 鍵室

参加者数 10 名

【市長】

・インクルーシブというのは「誰一人取り残さない」そして「分け隔てない」という意味。簡単に日本語で言えば地域共生社会、健康な人も高齢者もお子さんも、障害をお持ちの方も外国人も能美市に住んでらっしゃる全ての皆さんが安心安全快適に暮らしていただくとというのが、インクルーシブシティ。能美市では、スマートという文字を加えて「スマートインクルーシブシティ」と言っている。スマートはデジタル。デジタルのいろんな技術を導入をして、このスマートインクルーシブシティをめざしていく。

・スマートインクルーシブシティの取り組みを 3 つ紹介。

1 つ目。一人暮らしの高齢者が体調を悪くした場合、救急隊はその人がこれまでどんな病気にかかったか、どんな薬を飲んでいるのか、緊急連絡先はどこなのかなどを把握するのが大変。このような情報をデジタルで登録をしておいて、必要なときに必要な情報を出せるようにしようとしている。

2 つ目。子育て世代の皆さんにもデジタル技術を使って安全安心快適に暮らしてもらおうということでやってることはたくさんある。その一つを紹介をすると、お子さんが夜中に具合が悪くなったと、電話をかけて問い合わせる、問い合わせできる先が少なく、お母さん・お父さんは大変。これを、スマートフォンで自分の子どもの症状などをメールで流すと病院情報も含めて返信をしてくれるサービスを始めている。高齢者の皆さんも使っていただける。

3 つ目は「デジタル公民館」。市内にある町会・町内会 74 の公民館と寺井地区公民館等を含め、全部で約 80 か所に、Wi-Fi という電波を速く安く使える装置を今整備している。整備できると、公民館に行って、例えばスマホ教室を聞けるいきいきサロンを開催することができるようになる。将来的には、病院に行かずに公民館に行き、画面を見ながら病院の先生とオンラインで診療できる仕組みを作ろうと今やっている。大きく分けて、高齢者向け、子育て世代向け、公民館を使った多世代向けに取り組みながら、地域共生社会

を作っていこうというのがこのスマートインクルーシブシティ構想。その他にも、高齢者の皆さんに喜んでもらえる、あるいは生きがいを感じてもらえるような政策にも取り組んでいる。

【参加者】今のひとり暮らし高齢者は、スマホやパソコンを持っていない人も多い。持っていなくてもできるような仕組みではないといけない。ただ 5 年 10 年先になれば、多くの高齢者ができるかもしれない。スマホ等を持っていない人にも対応できる仕組みを作ってほしい。

【市長】見守り安心マップというものがある。民生委員・児童委員が、10 月が 11 月に各家庭を訪問し、鉛筆書きで書いているものを、民生委員・児童委員がパソコンに入力しデータ化する。また、医者さんにかかっている場合、そのデータを事前に電子カルテとして登録をしておくことで、皆さんが何の手を施さなくても必要なデータを取れるような仕組みを作っている。

また、「穏やかな見守り」みたいなことも考えている。タブレットを皆さんに渡し、そこにはいろんな情報が入ってる。例えば、タブレットで新聞を読めるようにしておいて、タブレットのスイッチを毎朝入れると、県外にいるご家族が生存確認できるというようなこともできないかと考え始めている。

【参加者】老人クラブのホームページを市のホームページの中に入れ込めないか。

【市長】市ホームページとリンクを貼ることは可能。

【参加者】婚活の取り組みは。

【市長】やっている。

【参加者】空き家対策は。

【市長】市内に空き家は、約 750 件ぐらいある。そのうち空き家バンクに登録しているのは 20 件ほど。空き家はたくさんあるが、何らかの理由で手放したくないから、そのままにという人も多い。

市内企業が外国人を雇ったときに空き家を活用したいというのもあるが、マッチングは難しい。ここは課題。

また、空き家の管理というのは、建物の老朽化だけでない。以前他の自治体で、市内が一斉に断水したことがあった。原因は、空き家の水道管が破裂していて、誰も気づかず、漏水していたことだった。

ということで、能美市では、町会長・町内会長の協力を得て、全部の空き家を管理し出している。何かあったときに、必ず確認できるようにしてある。

そのほかの問題として、小動物の住みかになるとか、空き家にゴミをたくさん詰め込んであり、そのまま放置してあったというような事例もあった。

最近は新しい制度として、空き家を能美市に預けられる制度を作って周知している。

【参加者】 空き家バンクにに登録すると、メリットはあるか。

【市長】 こんな空き家があると宣伝ができる。貸しても売ってもいい。

【参加者】 昨年 8 月の台風時の対策は。

【市長】 去年の 8 月 4 日は、台風でなく線状降水帯ができ、1 時間当たり 86 ミリの雨が降った。それによって市内に被害が出た。山間部だけでなく、能美根上駅の周辺でも冠水した。寺井地区でも結構被害が出た。いろんな対策をしていて、まずは市内に通ってる大きな川の容積を広げるということで今やり出している。

それから、市内には宮竹用水が流れている。田んぼに水をやるための用水だが、大雨が降ったときに、宮竹用水に入る水を止め、雨水の排水路として活用することもやり始めている。かなり効果が出ていると思われる。

8 月 4 日の大雨時、皆さんに情報をお知らせするのは防災行政無線だった。スピーカーから流れるので、その場所にいないと聞こえない。「どこにいても、どんな状況でも、市内で何が起きているかを市民に知らせてほしい」という声を受けて、能美市の公式 LINE を作った。これに登録して、お友達にも「能美市の LINE 登録するといいよ」と伝えてほしい。

今は一方通行だが、将来的には意見を聞いたりするアンケート調査もできるようにしたい。

【参加者】 敬老会を旧 3 町それぞれでやるようになった。旧 3 町合同でやっていると、参加者が少ない。参加者を増やすために。ただ 5 年に 1 回ぐらいは合同でやって、旧町単位

では呼べないようなゲストを招いてやれないかと考えている。交通手段のない参加者の為に、バスをいろんなイベントごとに出すのは難しいと思うが、文化祭のような行事であれば出してもらえるか。

【市長】 マイクロバスを出すとしたら、どれだけ乗ってもらえるか。

【参加者】 例えば文化芸能発表会とか特別な行事のときに、各地区でマイクロバスに乗れるくらいの人数は集められるのではないか。出演者と関係者しか客席に座らない状態が続いている。

【市長】 今いきいきプラチナプランというのを作り直しているが、これまではシルバープランという名称だった。65 歳以上の人にアンケートを取って、老後は何が楽しみですか、今何をしていますかと聞くと、結構今は 70 歳で元気に会社をやっている人もたくさんいる。それから町会長・町内会長の年齢も 70%以上が 65 歳以上の人たち。65 歳以上の人たちには、元気でいてどんどん活躍してもらいたい。